

先端研究拠点事業—国際戦略型—
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」
研究者交流プログラム 派遣報告書

2015 年 3 月 1 日

氏名(ふりがな)	杉村 佳織 (すぎむら かおり)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	お茶の水女子大学大学院・理学専攻・情報科学コース
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	修士 2 年・郡 宏先生 (指導教員)
メールアドレス	sugimura.kaori@is.ocha.ac.jp
電話番号、F A X	03-5978-5395

派遣先

受け入れ研究者氏名	
所属機関 (国)	
身分	
メールアドレス	
研究室 URL	
電話番号、FAX	

共同研究

研究課題名	和文	
	英文	
場所 (国名・都市)		
派遣期間		

参加プログラム：「International WE-Heraeus Physics School」

参加期間：2015/2/22~2015/2/27

6 日間行われたスクールでは、講義、short talk、2 回のポスターセッションが行われた。講義には私の研究に非常によく関連したパターン形成、興奮性媒質モデル、新たな研究題材に考えている細胞の動きについての話も含まれており、今後の研究の助けになるものばかりだった。

今回のスクールは事前に提出した研究アブストラクトをもとに、9 人が選出され 15 分間の short talk をすることになっていたが、そちらの方にも選出していただき口頭での発表の機会も得ることができた。現在の研究は Markus Bär 氏 (Physikalisch-Technische Bundesanstalt) のモデルをもとにし、Carsten Beta 氏 (Universität Potsdam) の論文を先行研究としているが、両氏にも研究発表を聞いていただき質問も受けた。発表後には Kenneth Showalter 氏 (West Virginia University) と Martin Falcke 氏 (Max-Delbrück-Centrum Mathematische Zellphysiologie) からも発表内容に関連するご自身の論文とアドバイスをいただいた。

また、本スクールは講義室と居住先が全て同じ建物の中にあつたため、毎食を他の参加者と共にし交流の機会も多かった。スクール参加者はドイツのみならず、アメリカ、イスラエル、ポーランド、ハンガリー、イラン、スロバキア等方々から集まっており各国の同世代の学生と Ph.D. 進学後や将来のこと、お互いの国の文化について話し合うことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

今回参加したスクールは、私の初めての海外で参加するスクールでした。思いがけず Short talk の機会もいただき、今後の研究生生活の励みになりました。ご支援くださった先端研究拠点事業の皆様には感謝致します。